

厚生文教常任委員会視察研修報告

葛 城 市 議 会
厚生文教委員会

<日 程> 2026年(令和8年)7月10日(金)

<研修先> 富山県立山町 防災児童館複合施設「アカリエ」

<参加者> 厚生文教常任委員会委員 6名

藤井本浩 委員長 杉本訓規 副委員長

川村優子 委員 奥本佳史 委員

木村公 委員 福本善之 委員

<随行者> 中井こども未来創造部長 勝眞教育部長

<立山町の概要>

立山町は、本州日本海側の中央に所在する富山県の南東部に位置している。県都富山市に隣接しており、富山駅、富山空港へは約30分という良好なアクセスを誇っている。一方、町の東側は中部山岳国立公園となっており、標高3,000メートルに達する立山連峰がそびえ立山アルペンルートが通っている。

- ・人 口 23,922人(令和8年5月末現在)
- ・世帯数 9,717世帯(令和8年5月末現在)
- ・面 積 307.29km²



◆ 研修内容 ◆

防災児童館複合施設アカリエの整備及び子育て支援等の取組について

＜会 場＞ 防災児童館複合施設アカリエ

＜説明者＞ 企画政策課 中川課長補佐
健康福祉課 松島課長補佐

〔講義概要〕

アカリエは元々750人を収容する町民ホールを解体し、利用状況を検討した結果、350人収容に縮小し、舞台や椅子は可動式の複合施設に替わった。併設されている遊戯室や乳幼児室等のこどもホームとともに屋内での子供たちの遊び場として、雨天だけでなく、雪の多い立山町では喜ばれ、今では駐車場が不足するという。

建築にあっては、ZEB基準を満たし省エネと総エネを考えられ、地中熱を利用する。

また柱等、角がなく丸みのある一般の公共施設にはないこだわりがある。

総事業費1,807百万円のうち国庫補助金1,201百万円を活用、町単費は605百万円で事業を完成させた。

災害時は避難所となり、平時の会議室などは災害対策会議の場となる。

この建設に至るまで地域住民と多くのワークショップやヒアリングを行い衆知を集めた。

アカリエ以外にも、役場前の書店併設型ローソンを見学、これは町の中心部に本屋がないという要望を受け、町が店舗を建設し業務委託されている。

立山町元気交流ステーションも見学、富山鉄道五百石駅と図書館・会議室・子育て交流サロン・保健センター・健康福祉課などが複合化された3階建て施設。

以上、公共施設の複合化を効率的に、また積極的に行われている。

■■委員の所感■■

子どもの遊び場の提供は必要であると考えており避難所にもなる場所は合理的であると思う。市民の集いやすい場が安心できる場所で未来に残せるよいものであればと考える。

まずアカリエ施設を見たときに外観に驚かされた。角がなく丸みのある建物で公共施設にない暖かい優しさが感じられた。

この施設の建設に尽力された職員さんの説明も素晴らしくわかりやすかった。建設にあた

り必要としない施設の集約をし、計画時には国や県の様々な事業補助金を使い管轄が異なる担当者と共有し、部や課が縦割にならず取り組まれた。

また、この施設は環境にやさしく ZEB の認証もとられている。これも建設時の計画からしっかり考えられ内容には驚かされた。

防災機能と平時の使い方、ロゴ、サインで子どもたちの防災教育のことも考えられ、環境にも優しい施設であった。

葛城市には現在このような遊びながら、防災、環境などを学べる施設がなく、雨天時にも遊び場にもなる施設が必要だと考える。

子どもたちが多い葛城市だからこそ、小さい時から保護者と共に体験しながら学べる施設の必要性がある。

議員として今回の研修で将来のことも考え、公共施設のあり方、しっかりとした計画性が必要と考える。その際には色んな専門家の意見を聞く必要性がある。

計画から完成まで5年弱をかけ、ワークショップ、ヒアリング、アンケート等、計10数回に渡り住民の意見を汲み上げながら、設計会社と共に情報発信を続け、素晴らしい施設を建設されているが、完成に至る特筆すべき点が二点あった。

一点目は事業費。コロナ禍で総事業費が二割程度アップして18億となったが、様々な国庫補助制度を組み合わせ、12億の補助金を引き出され、これだけの施設を実質6億で完成された点。

二点目は光熱費。設計段階から省エネにより一次エネルギー負荷をゼロにする ZEB を目指され、4段階ある ZEB のうち、省エネ+創エネでエネルギー負荷 0%以下となる最高レベルの『ZEB』(カギゼブ)を北陸地域の公共施設で初めて取得された。特に地中 300メートルに埋め込んだチューブを通し、地熱の熱循環で建物内空調を行う「地中熱輻射空調」「地中熱床暖房」は、メンテナンスフリー&ほぼランニングコストゼロで、当初設計の 50%省エネを上回る 64%省エネを実現しており、これに売電(現在申請中)できるくらいの発電能力を擁する太陽光発電で、光熱費が極限まで抑えられていた。

肝心の防災センター機能についても、スペースを有効利用しながら発災時対応する職員負担を軽減する配慮が随所に見られた。

また併設される児童館は、年齢別のこどもホーム、屋内・屋外遊具も備え、普段から遊びながら防災意識を高める工夫と、定期的に防災イベントを実施することで、防災施設と児童館という機能の違う施設の融合に成功されている。

今回の視察を通じて痛感することは、事業完成に導く優秀な職員の存在である。一級建築士の資格を持ちデザインにも妥協無く、国の施策にも精通した上で限界まで補助金を獲得するスキルを有する職員はなかなかいないが、そういった人材を育てていくのも行政の責

務であると思う。

現場で知恵を絞り汗をかい旗を振る人材なくしては、このような素晴らしい施設は実現できず、その後の運用も魂の籠った取り組みにはならない。

翻ってわが身を顧みて、できないことを安易にできないと断ずるのではなく、どうすればできるかと考え抜いて行動することの大切さを改めて学んだ視察であった。

富山県立山町は立山黒部アルペンルートで有名な所、中山間エリアには近年企業立地がすすんでいる。学校は4校廃校になったが、民間利活用も進んでいる。

しかしながら、まちの中心部に店舗がなく、町民からの要望でスーパーマーケット改革、子どもたちの本を買う本屋さんがないため、本屋改革を進めていく策として、役場前に行政でその場所を準備した。ローソンが引き受け、コンビニの中に本屋を作ってもらい販わっている。

そして、そのそばに「立山町防災児童館複合施設アカリエ」がある。

「アカリエ」には災害等で暗くなっても施設のあたたかい「灯り」に向かって歩けるように、子どもたちの笑顔があふれる希望の「明かり」となるように どのおもいか込められています。

事業費は約18億に対し国庫補助金約12億。

素晴らしい仕事振りである。地域脱炭素移行「ZEB」と防災機能、公共施設複合化を上手く融合させている。ランニングコストがかからない設計には驚くばかりである。館内の温度、湿度は地中熱空調設備を導入して、館内で過ごす方々の健康管理ができる。

今回の視察研修は先進的な取り組み事例に、非常に有意義なものがあった。

ぜひ葛城市発展に活かしたい。

立山アルペンルートで有名な立山町は雄大な自然を持つ。

アカリエは元々750人を収容する町民ホールを解体、利用状況に鑑み350人収容に縮小、舞台や椅子は可動式の体育館に変身した。併設されている遊戯室や乳幼児室等のこどもホームとともに屋内での子どもたちの遊び場として、雨天だけでなく、雪の多いこの地域では喜ばれ、今では駐車場が不足するという。

人口24000人の立山町、しかし町の中心部で無いのが買い物する「スーパー」と「本屋さん」。要望が強く、特に子ども達から本屋さんが欲しいとの声が大きかったという。

そこで立山町はコンビニを町の予算で建設、そしてコンビニ本屋さんの経営者を募集した。いわゆる公設民営の店舗で、家賃が町の収入だが、売上は予算以上に伸びているという。